

〔古今要覽稿 草木〕またけ なが竹

またけ一名にが竹は漢名を苦竹といひ筍を聒苦筍といふ近邊處在これあるものは多く細小のものなりといへ共青梅練馬村及び下總松戸邊に出るものは肥大にして圍み一尺餘長さ三四丈に至る其根上より二三尺の間ははちくと同じく節密にしてそれより以上ははちくよりも節疎なり其密なるは毎節相去る事凡四五寸にしてその疎なるは一尺より一尺五六寸に至る其節の合たる貌本竿も枝節も皆一樣にして上節高く起りて下節は極て低し正にはちくの本竿節は低しといへ共枝節は却て高きものとはその状全く異なり此種丈高きものは十七八節以上にて始めて枝を生じ丈低きものは八九節その至て細小なるものは或は四五節より枝を生ず其始の枝は獨枝にして其次の一節よりは雙枝なりまた始めより雙枝にして絶て獨枝なきもありすべて一樣ならずといへ共これははちくと違ひ根上の數節に一分許の小黄芽ありて舊年の竹今年に至り新葉を生ずる比は其黄芽おのづから抽出て小青筍となりて舊枝の外に別に新枝を出すその枝はおほく獨枝なり

〔草木育種 菜〕下苦竹本 花鏡曰竹園宜用大麥糠或稻稔添河泥壅又死猫引他入竹杉林の間へ植こめば竹長くのび又雪折も少し總て竹の根もとへ糞を置ば根腐ものなり馬糞糠は多く入てよし植替は五月十三日よし又正月元日二月二日三月三日植てもよし冬月は惡し材に用るには八月に切ば竹實して虫少し

〔古今和歌集 物名〕にがたけ
命とて露をたのむにかたければ物わびしらに鳴のべの虫

〔倭名類聚抄 二十〕管竹 文字集略云管音甘楊氏漢語抄云吳似簞而節茂葉滋者也
〔撮壤集 竹中〕管竹 吳竹同和名

管竹